

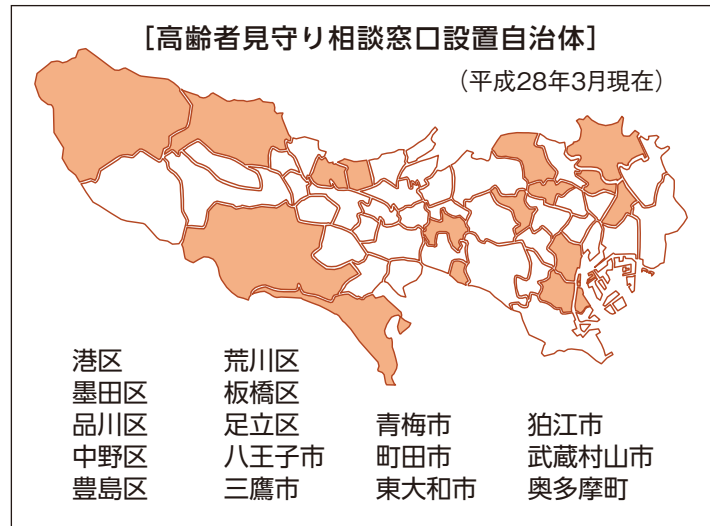


高齢者見守り相談窓口（港区・東大和市）

高齢者見守り相談窓口（旧 シルバー交番）

高齢者見守り相談窓口は、高齢者の在宅生活の安心・安全を提供するために、地域の高齢者からの相談受付や生活実態の把握、消費生活センターを含めた関係機関と連携した見守り等を行います。平成28年3月現在、16の自治体で、63箇所の高齢者見守り相談窓口が設置されています。

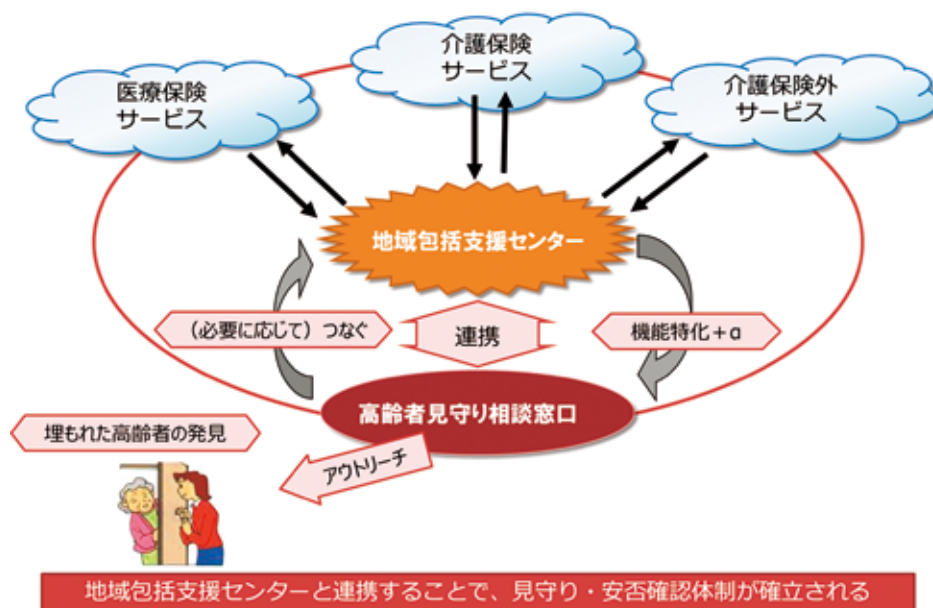
*「高齢者見守り相談窓口」は東京都の補助事業名称であり、実際の拠点の名称は、区市町村が設定した名称が使われています。



● 地域包括支援センターとの関係は？

地域包括支援センターは、高齢者見守りの総合窓口として、地域住民からの多様な相談に応じるとともに、個々の高齢者の状況に応じて、専門的な見守りや医療・介護サービスの提供など、必要な対応につなげています。

平成28年1月現在、399箇所の地域包括支援センターが設置されていますが、業務が広範に及ぶことから、戸別訪問などを実施する見守り専門機関である高齢者見守り相談窓口を設置し、地域包括支援センターと連携することにより、見守り機能の強化を図ることができます。



港区 ふれあい相談室

港区は、高齢者見守り相談窓口として「ふれあい相談室」を区内5箇所に設置しています。

積極的に地域に出向き、ひとり暮らしの高齢者などを訪問し、高齢者の困りごとなどの相談を受け、必要な支援につなげるふれあい相談員を配置し、高齢者の在宅生活の安心・安全を提供するよう努めています。



ふれあい相談員（平成28年1月時点で11人）

ふれあい相談員は、福祉の専門職員として、地域包括支援センター、民生委員・児童委員、町会・自治会、総合支所などとの連携のもと、高齢者を訪問するほか、地域の集まり、イベントなどに参加し、地域の皆さまから気軽に相談していただける関係を築いています。



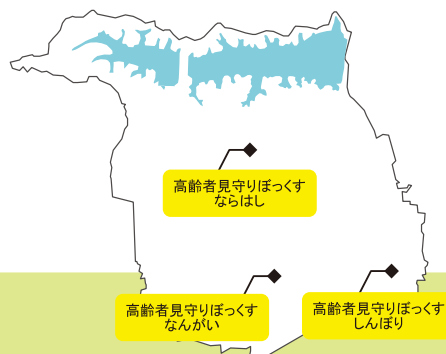
東大和市 高齢者見守りぼっくす

東大和市は、高齢者見守り相談窓口として「高齢者見守りぼっくす」を市内3箇所に設置しています。

社会福祉士やケアマネジャー等の資格を持った相談員が、地域の高齢者宅を戸別訪問し、地域での見守りを必要とする高齢者に対し、民生委員、自治会、関係機関と連携してネットワークを構築し、地域で安心して生活できるよう支援します。

また、**民間緊急通報システム**の設置相談に応じ、システムの発報があったときは、必要に応じて対象者の状況を確認します。

地域の高齢者や家族の方からの相談だけでなく、日頃、見守っていただいている地域の方々からのご相談等もお受けしています。



民間緊急通報システムについて

家庭内で急病等の緊急事態が起きたとき、ペンダント型の緊急ボタンを押すと、警備会社の受信センターへ通報が入るシステムです。電話確認を行うと同時に、現場派遣員が現地に駆けつけ、異常の有無を確認します。ボタンを押せない場合でも、生活リズムセンサー（一定時間、トイレの扉の開閉がない場合、自動的に通報）により、異常が通報されます。

また、緊急時以外でも、24時間365日、電話にて保健師・看護師・ケアマネジャーによる健康相談や介護相談が受けられます。